

大会名称: **高松宮記念杯 第48回全日本実業団バスケットボール選手権大会**
東日本大震災復興支援

開催場所: **仙台市体育館 Bコート**

試合区分: **No. 82 男子 決勝**

期 日: **2016(H28)年2月14日(日)**

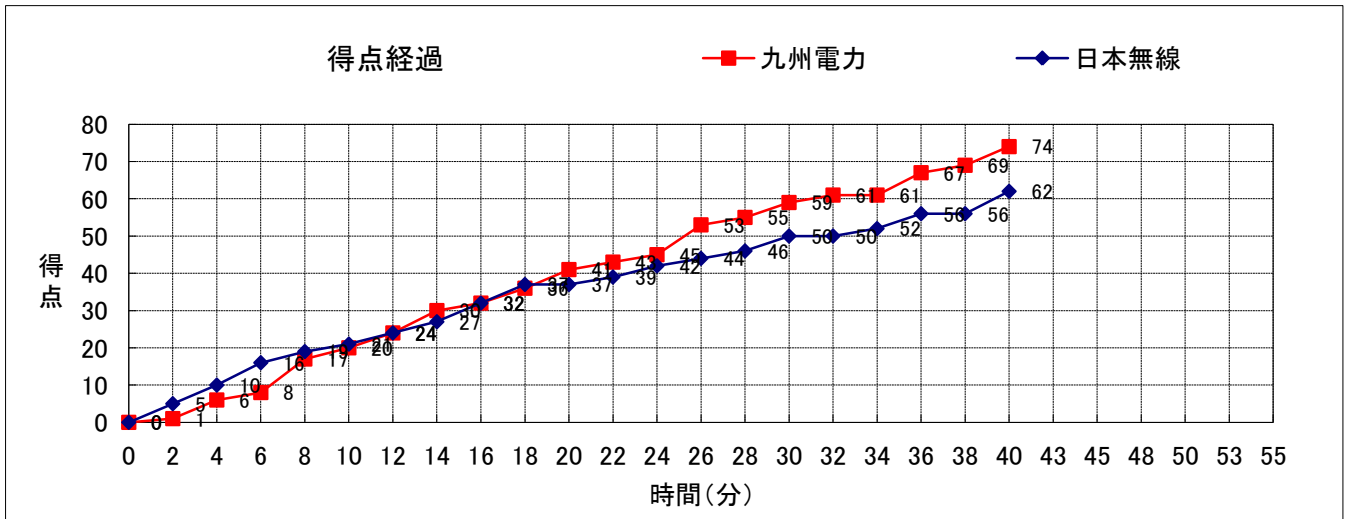
主審: **北沢 岳夫**

開始時間: **13:30**

副審: **小川 裕之:守谷 圭介**

九州電力		○	74	20 — 21 21 — 16 18 — 13 15 — 12 — — —	●	62	日本無線								
(九州1位)							(関東5位)								
NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		松谷 直人	-	-	-	-	-	1	*	福田 大佑	17	3	3	2	2
6		柚木 毅	-	-	-	-	-	2	*	福田 侑介	5	1	1	0	2
8		岡 隆輔	-	-	-	-	-	3		会川 剛史	-	-	-	-	-
9	*	田中 喜陽	9	0	4	1	1	6	*	鈴木 伸之	10	2	2	0	4
12	*	織田 秀司	10	0	5	0	2	7		松林 弘祐	-	-	-	-	-
15		賀来 龍矢	-	-	-	-	-	9	*	小林 純也	15	3	3	0	1
16		村瀬 敦希	0	0	0	0	0	11		藤井 祐	-	-	-	-	-
21	*	毛利 孝志	4	0	2	0	0	15		近藤 大	3	1	0	0	1
22		伊集 貴也	0	0	0	0	2	19		三原 大樹	2	0	1	0	1
24		中深迫 諒太	-	-	-	-	-	24		菅原 康平	-	-	-	-	-
26		坂本 祐一	-	-	-	-	-	25		尾崎 智則	-	-	-	-	-
30		吉満 俊孝	0	0	0	0	0	27		有田 拓矢	-	-	-	-	-
33		横山 優王	-	-	-	-	-	31	*	那谷 一樹	10	0	4	2	2
35	*	熊谷 駿	22	4	4	2	1	34		樋渡 大樹	0	0	0	0	0
40		赤星 雄平	6	2	0	0	2	58		鎌田 晃輔	-	-	-	-	-
45		根岸 豪	-	-	-	-	-								
47		藤田 弘道	-	-	-	-	-								
91	*	酒井 祐典	23	1	7	6	3								
コーチ		山口 健太郎 / TEAM						コーチ		尾崎 智則 / TEAM					
		合計	74	7	22	9	11			合計	62	10	14	4	13

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファウル
 一般社団法人日本実業団バスケットボール連盟



大会名称: **高松宮記念杯 第48回全日本実業団バスケットボール選手権大会**
東日本大震災復興支援

開催場所: **仙台市体育館 Bコート**

試合区分: **No. 82 男子 決勝**

期 日: **2016(H28)年2月14日(日)**

主審: **北沢 岳夫**

開始時間: **13:30**

副審: **小川 裕之:守谷 圭介**

九州電力 <small>(九州1位)</small>	○ 74	20 - 21 21 - 16 18 - 13 15 - 12 — — —	● 62	日本無線 <small>(関東5位)</small>
--------------------------------------	----------------	---	----------------	--------------------------------------

1Q: 3年ぶり5回目の優勝を目指す「九州電力」と2年連続3回目の優勝を狙う「日本無線」の決勝戦は両チームマンツーマンでスタート。無線が#9小林のドライブで先制。対する九電は#91酒井のポストプレーで応戦する。残り5分57秒、無線に外角からの3連続7得点を許したところで九電が1回目のタイムアウトを取る。タイムアウト明け後、九電は激しいディフェンスを仕掛け無線の得点を止め、内外角から効率的に得点を重ねていく。残り2分15秒、九電#40赤星に3Pを許し逆転されたところで無線はたまたまタイムアウト。その後、無線は外角から得点を重ねたのに対し、九電もポストやブレイクでファールをもらい21-20の無線リードで終了。

2Q: 九電#12織田のゴール下シュートでゲームが動くが、無線はすぐさま#1福田(大)が3Pを入れ返す攻防。その後、九電はオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ無線のミス进行を誘い、無線は#6鈴木に3Pまで2分間ノーゴールに抑えられる。九電はその間リバウンドからのブレイクなどで点差を広げていく。無線は#1福田(大)の3Pで同点に追いつき、その後は両チームとも得点を重ね一進一退の攻防となるも、九電は#35熊谷のドリブルからの早い切り替えで得点を伸ばし41-35(2Q: 21-14)で九電が一步リードして前半を終了。

3Q: 無線は#9小林の3P、九電は#91酒井の連続得点や、チームオフェンスにより得点を重ねていく。その後、九電は#35熊谷の3Pや#91酒井のリバウンドからのゴール下で得点を広げるも無線も#31那谷で応戦。九電は激しいプレッシャーディフェンスから無線のミス进行を誘いブレイクで点差を広げていく。無線も#1福田(大)を起点に得点へ繋げていくが、九電の#9田中のシュートで59-50(3Q: 18-15)とし終了。

4Q: 開始から2分間、両チームともシュートまではいくものの得点にならず。九電#91酒井のゴール下でゲームが動き、無線も#6鈴木のコナーからのシュートで応戦。しかし、九電はガード#35熊谷が連続3Pを決めたところで無線はタイムアウト。無線は粘り強いディフェンスで24秒オーバータイムを取るなど自らの攻めに繋げようとするもなかなか得点には至らなかった。残り1分42秒で九電がタイムアウトを取り、#35熊谷を起点として#40赤星の3Pで得点を伸ばす。無線は#9小林が3Pを入れるも最終的に74-62で九電が勝利し、3年ぶり5度目の優勝とともに、全実競技大会・全日本社会人大会・全実選手権大会の三冠を達成した。